

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成27年10月29日(2015.10.29)

【公開番号】特開2011-250441(P2011-250441A)

【公開日】平成23年12月8日(2011.12.8)

【年通号数】公開・登録公報2011-049

【出願番号】特願2011-148224(P2011-148224)

【国際特許分類】

H 04 J 13/00 (2011.01)

【F I】

H 04 J 13/00 100

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年9月2日(2015.9.2)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

スクランブルされたデータはミキサ14a乃至14nのバンクに供給される。各ミキサは対応する局部発振器16a乃至16nによって駆動される。各ミキサ14a乃至14nからのアップ変換されたデータはスイッチ18に供給される。好ましい実施例では、第n番目の局部発信器(n^{th} LO)の周波数は $f_0 + N_{10}$ であるので、局部発信器の周波数は均等に分離される。好ましい実施例では、 N_{10} はチップレートまたはチップレートの何倍かであるので、局部発振器の周波数はPN発生器のチップレートまたはその何倍かによって分離される。スイッチ18はどのアップ変換された信号の1つが送信器(TMTR)20に接続されるべく準備すべきかを選択する。送信機20に供給されるアップコンバートされた信号は制御プロセッサ22によって供給された信号に従って選択される。記述された実施例では、制御プロセッサ22は疑似ランダム処理に基づいた選択信号を発生する。疑似ランダム処理は、そのようなシーケンスを発生するための周知の技術である多くの方法のいずれか1つを使用して発生することができる。例えば、疑似ランダムシーケンスは直線または非直線帰還シフトレジスタによって発生することができる。それは暗号キーストリーム発生器(cryptographic keystream generator)によっても発生されてもよい。これらどの技術も電子的連続番号(ESN), 公共キー(public key)または秘密キーのような、移動局と同一のものを使用できる。これらの技術は周知の技術である。代わりの実施例では、選択信号は第1から第2, 第nまでのアップコンバートされた信号の順番選択でありうる。もう1つ他の代わりの実施例では、選択された周波数はチャネルの状態に基づいていてもよい。受信システムは各チャネルのパフォーマンスを測定し、その後好ましい周波数を使用のための送信器にフィードバックしてもよい。これはバイロットのように、連続送信される信号をモニタすることによりなされてもよい。選択された信号は送信器20に供給され、送信器は信号を濾波して増幅しそしてアンテナ24を通して送信のためにそれを供給する。本発明の好ましい実施例において、同様に発生された少なくとも1つの他の信号が共に多重化されるであろうことは理解されねばならない。むしろ、このような同様に発生された信号の数はミキサ14と局部発振器16の組合せの数と等しくなるであろう。例えば、図1に示された実施例の場合には、3つのこののような信号が多重化され、送信器20を通して送信されるであろう。よって、3つの異なる源からのデータ(そして3つの異なるスイッチ18から送信器に接続された、その1つのみが示されている)は、送信器20による送信前に一緒に多重化される。各スイッチ18は、ミキサ14

を選択し、このミキサはお互いにスイッチ 1 8 によって同時に選択されている信号を発生している他の局部発信器 1 6 のそれぞれの周波数とは異なる周波数で動作している局部発信器 1 6 と接続される。